

第87号

発行
平成29年8月

センターだより



蛍の交歓会

目次

● 就任挨拶	1
● 第12回大分県障がい者スポーツ大会	2
● 第52回蛍の交歓会	3
● 第22回所内スポーツ大会	3
● 頸髄損傷者の健康管理	4
● 納涼盆踊り大会	5
● 平成29年度頸髄損傷者に対するリハビリテーション研修会の開催について	5
● 電動車椅子用の自助具について	6
● 編集後記	6
● 終了者の状況、職員異動、利用者募集のご案内	

指定障害者支援施設

国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局

別府重度障害者センター

就任挨拶

所長 三好 尉史

本年4月1日付で埼玉県所沢市にあります国立障害者リハビリテーションセンターから赴任してきました。

別府センター勤務は2度目になります。平成10年4月から5年間勤務した経験があり、懐かしさを感じるとともに、海や山々を身近に感じができる豊かな自然環境にほっとしているところです。

趣味は身体を動かすことで、いまは一人でも気軽にできるランニングを日課にしています。センター近くの陸上競技場や別府公園、休みの日は国道10号線の海岸線沿いをランニングコースとしていますが、ランニング中に車いすランナーを見かけることが少なくなく、さすが障害者スポーツが盛んな大分県だと感心しています。また、美しい海岸線を眺めながら、たっぷり汗をかいて走った後、別府駅近くにある不老泉や海門寺温泉等の市営温泉でひとつ風呂浴びることが何よりも楽しみになっています。

さて、当センターは、主に頸髄損傷の利用者に対して、医学的な管理のもと、障害福祉サービスを提供することを目的としています。具体的には利用者おひとりごとに個別支援計画を作成し、医師・看護師・介護福祉士による健康管理や介護を行なながら、理学療法士・作業療法士・運動療法士・機能訓練指導員・生活支援員等専門職員による訓練や支援を通して、利用者が望んでいる生活を少しでも実現できるよう関わっています。

また、当センターは国の障害者リハビリテーションの中核機関として先導的な役割を担っています。そのため、第2期中期目標に基づく運営方針や組織目標を毎年具体的に立て、重度障害者に対するサービスの充実に努めているところです。

平成29年度に取り組んでいる組織目標の中から2つほどご紹介します。

一つめは利用者サービスの透明性と質の確保を目的に、福祉サービス第三者評価の受審です。第三者評価機関による利用者アンケートも実施されるため、受審結果を広く公表するとともに、今後のサービス提供に活かして行く予定です。二つ目は12月に予定している頸髄損傷者に対するリハビリテーション研修会の開催です。これまで培ってきたノウハウ等を積極的に情報発信していくことも、当センターの重要な使命です。参加された方々にとって有意義な研修会になるようしっかり準備したいと思っています。

最後になりますが、これまで頸髄損傷者のリハビリテーションを長い間牽引してきた伊東重度障害者センターが平成28年6月末に廃止され、当センターの役割はますます重要になったと言えます。引き続き、伝統と歴史を大切にしながらも、時代の推移にも柔軟に対応できるように、これからも取り組んでいきたいと考えております。

地域の皆様、関係機関の皆様、これからもよろしくお願ひ申し上げます。

第12回 大分県障がい者スポーツ大会

木畠 聰



今年は例年と比べて季節の歩みが少し遅いように感じます。梅雨前の少し蒸し暑い天候の中行われることが多い大分県障がい者スポーツ大会ですが、今大会は、晴天のさわやかな気候の下での開催となりました。

当センターからは、アーチェリー競技、陸上競技に参加しました。

アーチェリー競技は5月20日(土)に、別府市実相寺アーチェリー場にて行われました。頸髄損傷のクラスに三ヶ島悟さん、胸髄・腰髄損傷のクラスに鳳大希さんが出場し、それぞれ自己ベストの点数を出すことができました。二人とも初めての大会参加とは思えないほど落ち着いて競技していたことが印象的でした。

翌5月21日(日)には大分市の大分銀行ドームにて陸上競技が開催され、当センターからは11名が参加しました。大会前は、セレクティブワークの時間を使って練習に取り組み、準備をしてきました。50m走、100m走、ビーンバック投げ、スラローム、ソフトボール投げ等の競技があり、希望に応じてひとり2種目まで参加ができます。各種目においてクラス別・性別・年齢別で表彰があることから、参加する利用者もメダルを獲得できる可能性が高いのですが、ビーンバック投げだけは毎年参加希望者が多くメダル争いも厳しくなります。本番3投にかける緊張感が応援している者にも伝わってくる種目です。

結果は、参加者全員最後までしっかり競技に参加できたことはもちろん、金メダル9個 銀メダル4個 銅メダル2個を獲得するなど好成績を収めることができました。また、今年は熱心な練習の成果が出たのか、自己ベスト記録を更新する選手が多くいたようです。

競技前の緊張感と終わったあとの少しほっとする開放感は実際に参加する選手にとっても、応援する人にとっても日常とは少し異なる良いものです。来年も多くの方の利用者の参加をお待ちしています。



第52回蛍の交歓会

平成29年6月8日(木)に竹田市立南部小学校の皆さん、「友情の蛍」とともに来所されました。

贈呈式では、6年生30名から、約400匹の蛍の他、各学年の児童作品や花束が利用者に手渡され、合唱やリコーダー演奏を披露していただきました。

児童会長から「蛍の光が友情の架け橋となり続けることを祈ります」と挨拶があり、利用者代表からは「この交流会を心待ちにしていました。今年もたくさんの中や作品をありがとうございます。皆さんと一緒に楽しい思い出を作りましょう」と感謝の言葉を述べました。

贈呈式の後は、昼食会や、体験学習(車いす操作とゲーム、トールペイント、手織り、レザークラフト等)を通じて児童と利用者の皆さんとの交流を深めました。

夜には、当センター内の一室に蚊帳を張って蛍を放し、観賞会を行いました。

「蛍のきれいな光は久しぶりだ」と感動する利用者の方も多く、初夏のひとときを楽しむことができました。

秋には「答礼」のため利用者代表数名と南部小学校を訪問する予定です。



第22回 所内スポーツ大会

7月6日(木)に第22回所内スポーツ大会を開催しました。利用者、職員が紅白に分かれ、7種目の競技(じゃんけんサッカー、ボールリレー、ねらってピンボール、パン食い競争、ゴロサッカー、当てるっしゃ、対抗リレー)を競い合いました。紅組キャプテン平田さん、白組キャプテン緒方さんがカラフルな髪と蝶ネクタイのユニークな出で立ちで選手宣誓を行い、競技が始まりました。勝敗の行方は最終競技である対抗リレーまでもつれ、それぞれのキャプテンがアンカーをつとめ、最終アンカーで対抗リレーの勝負がついた程の熱戦でした。結果は紅組が勝利し、2年連続でトロフィーを手にしました。

この度のスポーツ大会開催においては、関係機関のご協力あって開催できたことを、この場をかりて御礼申し上げます。また、青山保育園の園児の皆様においては、競技への参加と可愛らしい応援をありがとうございました。



診療室より～頸髄損傷者の健康管理について～

徳永 ひろ子

近年ヘルスリテラシーという概念が注目されています。患者自身が自分の健康を主体的に管理するために健康や医療に関する情報を収集し、理解し、活用する力という概念をいいます。

診療室では、利用期間中に自分の身体を知った上で主体的に健康の自己管理をしていく方法を身につけてほしいと考えています。今後の長い人生を人任せにせず、自分のことを理解して健康に過ごして下さい。健康管理についての情報を何回かに分けてお話ししたいと思います。

<まず、自分の身体を知りましょう!!>

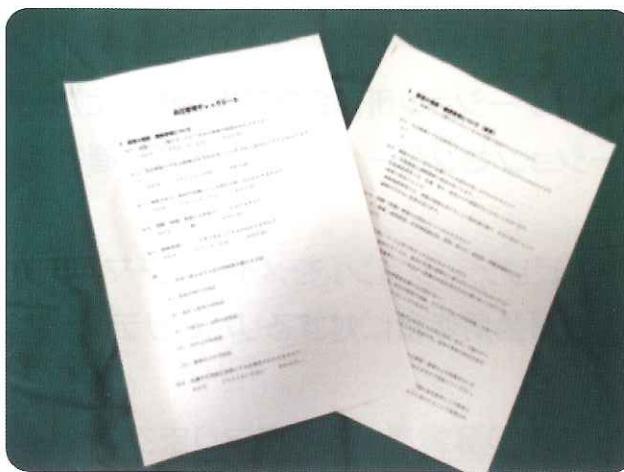
健康管理をするためには、まず自分の身体を知ることが大切です。障害を理解し、合併症を予防する。合併症を予防することは、今後、健康に生活できること！につながります。

頸髄もしくは脊髄を損傷すると、その損傷部以下に麻痺が起こります。麻痺が起こると、筋肉や皮膚に影響を及ぼします。痛みなどの感覚がなくなり、運動機能に障害が起こります。

頸髄（脊髄）損傷後には麻痺だけでなく、様々な身体機能の低下が起こります。尿路感染や便秘などの排尿・排便障害や、褥瘡の危険、うつ熱などの体温調節機能の障害、痙攣、自律神経過反射、骨や皮膚への影響、循環器や呼吸器障害などの合併症を起こすこともあります。ひとたび合併症を起こすとせっかく社会生活を営んでいたにもかかわらず再入院！なんてこともあります。そのために予防方法を身につけて正しく自己管理出来るようになります。自分では難しいな…と思うことについては、知識として理解していることを周りの人（介助者など）に伝えるようになることも大切です。

自分の身体に興味を持って自己管理するために、診療室では「自己管理チェックシート」を作成しました。チェックしてわからないことについては、解答を丁寧に説明します。今後の自己管理にお役立てください。

暑い夏を乗り越えられるように十分な睡眠や栄養をとって、規則正しく生活し、しっかり身体を作ってください。



自己管理チェックシート



納涼盆踊り大会

南莊園自治会との共催で開催される、毎年恒例の納涼盆踊り大会が8月3日（木）に当センター屋外運動場にて開催されました。

今年は今にも泣き出しそうな空の下での開催となりましたが、古戦場太鼓の音が大きく響きわたる中、別府民踊会・南莊園町婦人部の皆さんのお優雅な踊りの輪に引き込まれるように、地域の方々、利用者、職員も積極的に踊りの輪に加わりました。

また会場内では子どもたちがスーパー水鉄砲に興じる姿も見受けられました。

地域の方々と当センター利用者とのふれあいを目的としているこの納涼盆踊り大会ですが、今年も無事終えることができました。

ご協力いただいた古戦場太鼓・別府民踊会・地域の皆様ありがとうございました。

参加者の体調に配慮した結果、例年より時間を短縮しての開催となりましたが、会場を通りすぎる涼風の中、皆で楽しんだひとときとなりました。



平成29年度頸髄損傷者に対する リハビリテーション研修会の開催について

平成29年度頸髄損傷者に対するリハビリテーション研修会を12月9日（土）～10日（日）に当センターと国立障害者リハビリテーションセンター（所沢市）との共催で別府市にて開催いたします。

今年度は、「C4、C5頸髄損傷者のリハビリテーション」をメインテーマに、基調講演、パネルディスカッション、セミナーを通して頸髄損傷者に対するリハビリテーションの理解を深めることを目的といたします。

当センターホームページ等を通して参加者の募集をいたしておりますので頸髄損傷者のリハビリテーションに携わっておられる皆様の参加をお待ちしています。

電動車椅子用【軽食用ホルダー】の紹介

作業療法部門 岩下裕造

電動車椅子に乗られている上肢の障害が重度な方のうち、特に顎でコントローラーを操作する方の多くは手を口まで持ち上げることが難しく、一口程度のおやつなどでもその都度介助を依頼することとなります。

今回紹介する自助具は、チンコントロールの電動車椅子を利用されている方から、「一口程度のものを介助ではなく自分の好きなペースで食べたい」と要望があり作製した【軽食用ホルダー】です。スナック菓子程度のものを入れておけば、自分のペースでカップを顎で傾けて口の中に食塊を入れることができます。

使用用具は市販で売ってある計量カップ、大きめのクリップ（使用したものはスマートフォンクリップ）、洗髪ブラシを改良して、チンコントローラーのアーム部分に設置しています。操作は、カップの端を顎で手前に引くとカップが傾き、口もとまで食塊を近づけることができます。

これを使用することで、顎部の動きだけで、自分のペースで軽食を摂取でき、余暇の過ごしが広がったとご満足いただけました。このように、高位の頸髄損傷者の方であっても自力でできる動作を少しでも増やせるよう、今後も支援していきたいと思います。

*カップの中に入っている白い物（洗髪ブラシ）はカップの底上げと滑り止め等の為に入れました。



編集後記

厳しい暑さが続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。まだまだ暑い日が続くかと思いますので、体調にはくれぐれもお気を付けいただきたいと思います。

今年は水害が続いており、7月には九州北部豪雨が発生しました。被災された方には心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧・復興をお祈りしています。終了者等から「センターは大丈夫だったですか?」と心配してお電話をいただきましたが、幸いセンターに被害はありませんでした。

さて、今回センターだより第87号では、今年前半に行われたセンターの行事や業務に関する記事を掲載しました。センターの生の様子をお伝えできたら幸いです。次回センターだより発行は1月の予定です。少しでも充実したものにしていきたいと考えております。

終了者の状況

(平成29年1月1日～平成29年6月30日)

復帰形態	家庭復帰	就職	自営・内職	現職復帰	就労支援施設 能開校	他施設	病院	進学	その他	計
人 数	12	0	0	0	0	2	0	0	0	14
比率(%)	85.7	0	0	0	0	14.3	0	0	0	100

職員異動

平成29年3月31日付

○ 退職 医務課看護師 安達 美和

平成29年4月1日付

○ 採用 医務課看護師 山室 由紀子

○ 転入 所長 三好 尚史 (国立障害者リハビリテーションセンターより)

庶務課会計係長 佐藤 智治 (福岡視力障害センターより)

庶務課会計係 丸山 由紀子 (国立障害者リハビリテーションセンターより)

支援課主任心理判定専門職 山下 庄二 (福岡視力障害センターより)

○ 転出 所長 石渡 博幸 (国立障害者リハビリテーションセンターへ)

庶務課会計係長 佐藤 美紀 (福岡視力障害センターへ)

庶務課会計係 白石 朱音 (神戸視力障害センターへ)

支援課生活支援専門職 梶原 清隆 (福岡視力障害センターへ)

○ 内部異動 調理師長 川野 寿喜

平成29年7月1日付

○ 採用 医務課介護福祉士(任期付) 神田 未美

利用者募集のご案内

当センターは、厚生労働省が設置・運営する指定障害者支援施設です。主に頸髄損傷等による重度の肢体不自由の方で、市区町村から「障害福祉サービス受給者証」の交付を受けた方を対象に、社会復帰に向けた支援を行っています。

ご利用できるサービスは以下の通りです。

○自立訓練(機能訓練)

理学療法、作業療法、スポーツ訓練、職能訓練です。

利用期間については、利用開始後の評価に基づき作成した個別支援計画書に定めた期間となります。障害者総合支援法上の標準利用期間は1年6か月間です。(頸髄損傷による四肢の麻痺その他これに類する状態にある方は最大3年間です。)

○施設入所支援

自立訓練(機能訓練)を利用される方で、自宅から通所が困難な方のために、看護・介護等の支援を受けながら宿舎の利用が可能です。

詳細は、次のURLから当センターのホームページをご参照下さい。

<http://www.rehab.go.jp/beppu/>

なお、当センターの概要や利用申込み手続き、見学などのお問い合わせについては、下記までご相談ください。

お問い合わせ先

国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局

別府重度障害者センター 支援課

住所 〒874-0904 大分県別府市南荘園町2組

電話 0977-21-0182(利用相談) FAX 0977-21-2794

E-mail soudan-beppu@rehab.go.jp

頸髄損傷者の自立訓練(機能訓練)については下記の国立障害者リハビリテーションセンターの利用も可能です。

国立障害者リハビリテーションセンター

所在地 〒359-8555 埼玉県所沢市並木4丁目1番地

電話 04-2995-3100(代) FAX 04-2992-4525(直通)